

開催地名	北海道根室市
開催日時	令和5年10月19日(木) 12:55 ~ 15:30
開催場所	北海道根室高等学校
語り部	菊地 明範 (東京都杉並区)
参加者	高等学校、小中学校教員等 465名
開催経緯	北海道根室高等学校では、これまで様々な防災に関する取組みを行ってきたが、同じ高校である先進校の取組みについて講話をいただき、生徒が刺激を受け、更なる地域防災力の向上に繋がる今後の取組みを検討するために開催した。
内容	<p>〈根室高校で考える わたしの防災〉</p> <p>地震災害を基本にして考えるのが「防災」の基本である。緊急地震速報などがあるものの、地震発生の予知まではできない昨今、いつ起こるかわからない地震に対する防災を考えることで、他の災害にも対応できると考えている。</p> <p>東日本大震災から学べることは多いが、地震そのものよりも津波の被害が多く、地震による被害のことを考えるには、1995年に起こった阪神淡路大震災がいろいろな情報を私たちに示してくれている。</p> <p>(1) 地震発生時に命を守る心構え</p> <p>阪神淡路大震災は午前5時46分に発生し、6時までの14分間で92%が亡くなったとされている。したがって、地震発生から約15分の間の死亡を回避できれば、その後も多くの命が助かると考える。揺れてすぐの時に命を守ることを第一に考えていただきたい。様々な場所や場面での地震発生について対応を考えておくということが自分の命を地震から救うことになる。日本の建物は海外と違って多少の揺れであれば耐えられるとされている。安全な場所にいること、自分の家を安全な場所にすることが大事である。家を倒壊させない工夫が必要ではあるが、まずは家が倒壊しても死なない工夫が必要である。1階部分の倒壊に備えて2階で就寝することや就寝時の身の回りの家財道具の設置場所など、身体への直接的な被害を回避することが重要である。</p> <p>1981年に建築基準法の耐震基準が改正されており、その年以降の建築物はあまり倒壊していないが、果たしてご自身の家屋がいつ建てられたのかを確認していただきたい。「もぐれ・つかめ・よくみろ」。地震発生時はテーブルの下などにもぐりこみ、しっかりとテーブルなどの脚をつかみながら状況を見ていただきたい。揺れが治まったのち、身体を叩き、声を出して自分の身体と意識の状態を確認して安全を確保し、避難所へ向かうようにしていただきたい。</p> <p>(2) 地震発生後の取り組みと日頃の準備</p> <p>令和5年9月現在、根室市が保有する救急車は3台であり、本年の出動回数はその3台で988回である。他都市に比べて人口比では多い台数とされているが、面積比にすると十分ではない。「あなたのところに来る救急車はない」ということを認識し、まずは自助の精神で行動することが重要である。</p> <p>応急手当は「止血」が基本である。滅菌ガーゼを当て、梱包用ラップで止める「圧迫</p>

止血」は基本中の基本であるが、衛生面で必ず手袋着用で行うことも重要である。また、担架を用いた負傷者の搬送については、負傷者の足元方向から進むことが搬送される者の不安を和らげる意味でも重要である。

出火時の初期消火については濡れた毛布を火元へかぶせたり、消火器を利用するが、火が天井にまわるようであれば、その場から逃げるのが重要である。避難所などへの移動時にはヘルメットを着用が望ましい。避難に備え、普段利用するエレベーターについても確認をしていただきたい。「地震時最寄階停止」機能があるエレベーターにはそのステッカーが貼られているが、その機能がない場合は、揺れを感じた際に全フロアのボタンを押し、退避するようにしていただきたい。なお、法令で義務付けられているエレベーター非常灯の点灯時間は30分以上とされているが、その後の閉じ込めなどに備え、スマートフォンの予備バッテリーを常備するなど、日頃から意識して準備をすることが大切である。

(3) 災害時のトイレ問題と避難所について

根室市には指定避難場所が15か所あり、約16万人の収容が可能であり、内閣府のガイドラインでは、災害発生時に、避難者50人当たり1基、その後長期化する場合は20人当たり1基のトイレを設置することが望ましいとされている。一日のトイレ利用の平均回数が5回とされていることから、避難期間中に必要とされるトイレトーパーや排せつ物の凝固剤などの数を把握しておきたい。ちなみに4人家族が一週間の避難生活を送るとすると、家庭におけるトイレ備蓄として、凝固剤は140個、トイレトーパーは14巻ほど必要となる。

トイレ問題も含めて、避難所と在宅非難の良し悪しを理解することも重要である。避難所では二次災害の回避や食料・衣糧の配布がある一方、プライバシーが保たれにくいなど居心地の悪さもある。そこに自分の居場所があるのか判断をすることが大切である。

(4) 正しい知識で、ちゃんと恐れる

次のような考えは捨てなければならない。「誰かが助けに来てくれる」「みんなと一緒になら大丈夫」「きっと私は大丈夫。」正しい知識で、ちゃんと恐れることで、自分の命を守り、命をつないでいただきたい。今、できることはやっておこう！



開催地より

千島海溝沿い巨大地震への備えとして根室高校ではこれまで様々な取組みを進めてきたが、今回講話をいただいた「その時、命を守る」「そして、命をつなぐ」という2つのテーマで改めて学校防災を考え直し、更なる地域防災力の向上に繋がる取組みを推進したい。